

## 第 13 回 献血推進運動中央連絡協議会における協議事項について

## 2. 「献血推進 2014」にある目標を達成するための重点的な取組み

## ① 献血の意義を理解していただく取組み（受血者の顔が見えるような広報など）

都道府県名	予定事業の概要 (事業の取組みに当たって重点を置く事柄を含む。)	本事業を行うに当たっての連携・協力先 (連携・協力を必要とする団体等やその連携・協力を得るための方法。)
福岡県	・アンパンマンのエキスなどDVDのネット上での公開	・血液センター
佐賀県	・当県血液センターは、「患者の笑顔と献血者の奉仕の心が見える安心と納得の血液事業」をビジョンに掲げ血液センターの職員の意識改革と広報に力をそそぐ。	・血液センター・県
長崎県	・血液センター（製剤製造）等見学の実施	・血液センター
熊本県	・献血情報誌「KUBIRU（くびる）」の発行（年4回）	
大分県	・特になし	

宮崎県	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 受血者やその家族の声を伝える等により、献血に対する意識の向上を図る。</li> <li>・ 平成22年度にオープンした「ホリスティックヘルスプラザかごしま」を活用し、県民を対象にした全人的健康づくりと利他を目的とした取組を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 血液センター</li> <li>・ 医療機関等</li> <li>・ 県、市、各種団体、報道各社</li> </ul>
鹿児島県		
沖縄県		

② 10代の方々に献血の意義を理解していただき、初めての献血を安心して行っていただくような環境整備

都道府県名	予定事業の概要 (事業の取組みに当たって重点を置く事柄を含む。)	本事業を行うに当たっての連携・協力先 (連携・協力を必要とする団体等やその連携・協力を得るための方法。)
福岡県	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高等学校では、説明会などを開き、受血者サイドのDVDや初回者用のDVDを用い理解を得る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 血液センター、高等学校</li> </ul>
佐賀県	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 10代・20代を対象に期間を決めて献血啓発キャンペーン(複数回献血)を年6回実施するよう企画する。内容については今後検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県、血液センター、教育委員会、学校</li> </ul>
長崎県	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高等学校校長会、養護教諭研修会等で献血の推進を依頼</li> <li>・ 学校への個別訪問により協力依頼</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 血液センター、教育委員会</li> </ul>

熊本県	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若者情報誌への広報掲載「月間タウン情報クマモト」</li> </ul>	
大分県	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校生献血の輪拡大推進事業</li> <li>・初回献血者へ献血の注意事項用DVDを本社より整備し、事前に視聴していただく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育庁及び各高校に献血の推進に協力してもらえるよう依頼</li> </ul>
宮崎県	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初回献血者が抱えている不安等を払拭するため、採血の手順や採血後の過ごし方等について、映像やリーフレット等で説明を十分に行い、献血者の安全確保を図る。高校については出前講座等の実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・血液センター</li> </ul>
鹿児島県	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内高校生等（17才男性）を対象にした献血ポイントカードの発行し、高校等を卒業してからも献血を継続する働きかけを実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内高等学校等</li> </ul>
沖縄県	<ul style="list-style-type: none"> <li>・可能な限り献血教室と併せて実施し、安心して献血できるよう献血教室の中で十分な説明を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県、血液センター、教育庁、高等学校</li> </ul>

③ 20代の方々にリピータードナーとなっていただくような取組み

都道府県名	予定事業の概要 (事業の取組みに当たって重点を置く事柄を含む。)	本事業を行うに当たっての連携・協力先 (連携・協力を必要とする団体等やその連携・協力を得るための方法。)
福岡県	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 複数回献血メールクラブ会員登録者の拡大</li> <li>・ 広報誌「はっぴいくろす」に掲載</li> <li>・ 各種キャンペーンを通じての呼掛け</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 血液センター</li> </ul>
佐賀県	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ はたちの献血キャンペーンの一環として各短大・専門学校等に献血啓発チラシを配布する予定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県・血液センター・学校</li> </ul>
長崎県	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 複数回献血クラブへの登録を携帯メールから可能とし、メールにより配車計画を事前に送付する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 血液センター</li> </ul>
熊本県	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 献血経験者へのダイレクトメール バースディカードの送付 移動献血バス配車先案内のはがき送付</li> </ul>	
大分県	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 若年層献血啓発キャンペーン</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大分県学生献血推進協議会が実施。各大学や各市町村に協力依頼</li> </ul>
宮崎県	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業所等で献血協力いただいた方への複数回献血クラブへの登録推進</li> <li>・ 大学、専門学校等への複数回配車を検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 血液センター</li> <li>・ 協力事業所</li> </ul>

鹿児島県	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市町村国保との協働による若年層の健康増進・献血推進事業「輝けヤングハート&amp;ヘルス献血」を平成21、22年度に引き続き実施</li> <li>・学生等の友人献血の輪を広げる運動の実施（チラシ等）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県市町の国保担当課等</li> </ul>
沖縄県	<ul style="list-style-type: none"> <li>・携帯電話をかざすことで複数回献血クラブサイトにアクセスできる機器を各移動献血バスに設置し、登録を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・血液センター</li> </ul>

④献血者が心の充足感をより得られ、安心快適に献血を行っていただけるような環境整備

都道府県名	予定事業の概要 (事業の取組みに当たって、重点を置く事柄を含む。)	本事業を行うに当たっての連携・協力先 (連携・協力を必要とする団体等やその連携・協力を得るための方法。)
福岡県	<ul style="list-style-type: none"> <li>・移動献血会場では、会場のレイアウトや検診車の導入による快適な会場作り</li> <li>・職員の接客対応の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・血液センター</li> </ul>
佐賀県	<ul style="list-style-type: none"> <li>・献血待ち時間の掲示など出来るだけ情報の提供を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・血液センター・県</li> </ul>
長崎県	<ul style="list-style-type: none"> <li>・献血出前講座による事前説明の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・血液センター</li> </ul>
熊本県	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul>	

大分県	・ 献血ルームの新規移転により、広い休憩スペースや採血室を確保できた。	・ 血液センター
宮崎県	・ 2階建てバス（受付→採血→接遇を車内で実施）の整備を検討中。	・ 血液センター
鹿児島県	・ 献血現場における「ドナーケアチーム」の充実。 ・ 固定施設においてはホテルロビー・ラウンジ等をイメージした雰囲気作りに取り組む。	
沖縄県	・ ショッピングセンター内に献血ルーム新設を検討しており、安心快適に献血できるように十分な広さの借用をオーナー企業に申し込んでいる。	・ 血液センター、県内ショッピングセンター

### 3. 24年度の献血推進計画への記載を要望する事項

都道府県名	24年度献血推進計画への記載を要望する事項。 (特段に希望する事項があれば記載してください。)	記載を要望する理由
福岡県	・ 特になし	
佐賀県	・ 特になし	
長崎県	・ 高校生献血の推進について、文部科学省も推進していることを明確に記載してほしい。	・ 校内献血を学校、PTAが受け入れやすくするため。

熊本県	・ 特になし	
大分県	・ 特になし	
宮崎県	・ 特になし	
鹿児島県	・ 特になし	
沖縄県	・ 特になし	

4. 東北地方太平洋沖地震への対応（情報共有（すべき）したいことなど、自由に記載して下さい）

都道府県名	自由記載
福岡県	・ 特になし
佐賀県	・ 献血の必要数に対する情報の的確な公開を図り、一時的な献血ではなく長期の継続な協力を求める。
長崎県	・ 震災後、献血希望者が一時的に増加し、初回献血者も多かった。 この初回献血者をリピータードナーとするために、継続的な啓発活動を実施する。
熊本県	・ 特になし
大分県	・ 東北地方太平洋沖地震が献血に与えている影響を、具体的に情報提供して欲しい。 (被災地の採血状況や供給状況。電力不足による採血に与える影響など。)

宮崎県	・ 特になし
鹿児島県	・ 震災直後における事業本部からの採血等に関する指示・報道等の指示が不明確で、現場に混乱を招いた面もあったため、今回のようなケースにおける情報伝達・指示のあり方について検討をお願いしたい。
沖縄県	・ 地震発生直後、一時的に献血者が急増したが、新聞やラジオ等を通して継続的な献血の協力依頼を行ったところ、献血者数は落ち着いてきた。現時点において、急増に伴う期限切れは無い。

第13回献血推進運動中央連絡協議会における協議事項について

2. 「献血推進2014」にある目標を達成するための重点的な取組み

①献血の意義を理解していただく取組み（受血者の顔が見えるような広報など）

都道府県名	予定事業の概要 (事業の取組みに当たって、重点を置く事柄を含む。)	本事業を行うに当たっての連携・協力先 (連携・協力を必要とする団体等やその連携・協力を得るための方法。)
鳥取県	—	—
岡山県	—	—
広島県	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 受血者のメッセージのリーフレット内への記載</li> <li>・ 受血者の闘病記録映像の活用 (DVD 配布等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 血液センター, 放送事業者</li> </ul>
山口県	—	—

徳島県	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 広報の記事について感想を聞いたところ、「アンパンマンのエキスの記事が非常に参考になった。」との回答が多かったので、受血患者の顔が見える広報を取り入れたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ タウン誌の記事の工夫。血液センターの出前講座を利用し、学校で生徒に献血の啓発を実施する際にも受血者の顔が見える内容を取り入れる。実施に当たっては、教育委員会と各学校の理解が必要。</li> </ul>
香川県	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各種イベントの開催、高校生等への啓発事業（ボランティア事業、献血出前講座）の際における説明。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 献血場所（大型ショッピングセンター）、教育委員会、各高校等への協力依頼</li> </ul>
愛媛県	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 17歳の高校男子生徒へ知事メッセージ（受血者の声としての体験談を記載）を配布し、献血の普及啓発を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育委員会</li> <li>・ 愛媛県赤十字血液センター</li> </ul>
高知県	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 受血者の声を取り入れ、ホームページや広報資材に反映させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 受血者、病院等</li> </ul>
島根県	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 献血セミナー等で患者さんの様子が伝わるDVDを上映（「ありがとうっていっぱい言わせて」等）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 血液センター</li> </ul>

② 10代の方々に献血の意義を理解していただき、初めての献血を安心して行っていただくような環境整備

都道府県名	予定事業の概要 (事業の取組みに当たって、重点を置く事柄を含む。)	本事業を行うに当たっての連携・協力先 (連携・協力を必要とする団体等やその連携・協力を得るための方法。)
鳥取県	・ 学校等への出前講座	・ 教育委員会等
岡山県	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 献血パンフレット「熱血・献血宣言」を作成し、献血実施が可能となる高校2年生に配布する。</li> <li>・ 啓発チラシ「400mL 献血に御協力を！」を作成し、高校卒業生に配布する。</li> </ul>	・ 県内高等学校
広島県	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 献血推進ポスター募集</li> <li>・ 高校卒業生全員に献血へのお願いなどを記載したクリアフォルダーの配布</li> </ul>	・ 血液センター， 教育委員会
山口県	—	—
徳島県	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中高生を対象に献血推進ポスターの募集による普及啓発</li> <li>・ 県下 JRC（高校生）を対象とした献血研修会</li> <li>・ 高校生献血の実施に向けての取り組み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育委員会</li> <li>・ 教育委員会、校長会、養護教員への説明会</li> </ul>
香川県	・ 高校生啓発事業の際に献血の意義及び献血方法等について説明	・ 教育委員会、各高校への協力依頼

愛媛県	・ 17歳の高校男子生徒へ知事メッセージ（初めて献血を行った10代の声としての体験談を記載）を配布し、献血の普及啓発を行う。	・ 教育委員会 ・ 愛媛県赤十字血液センター
-----	--	---------------------------

高知県	・ 学校に出向いての献血出前講座の実施。（献血の必要性、安全性の説明など）	—
-----	---------------------------------------	---

島根県	・ 初回者の方には初回献血者用DVDを上映 ・ 高校生を対象とした保健所、血液センター職員による献血出前講座の実施	・ 血液センター ・ 保健所、血液センター、高校、県教育委員会
-----	--	------------------------------------

③ 20代の方々にリピータードナーとなっていただくような取組み

都道府県名	予定事業の概要 (事業の取組みに当たって、重点を置く事柄を含む。)	本事業を行うに当たっての連携・協力先 (連携・協力を必要とする団体等やその連携・協力を得るための方法。)
鳥取県	・ 複数回献血クラブへの加入を促進	・ 大学等

岡山県	・ 大学献血を中心に学生に固定施設へ来ていただくよう依頼チラシを配布する。	・ 配布チラシを持参の学生に記念品を配布
-----	---------------------------------------	----------------------

広島県	・ 食生活の改善に視点を置いたリーフレットの配布	・ 血液センター
-----	--------------------------	----------

山口県	・若者層対象期間限定キャンペーン実施予定	—
徳島県	・若年層対象のタウン誌に献血啓発記事を掲載しており、記事には必ず、複数回献血クラブの登録の QR コードを印刷し、携帯電話から容易に登録出来るようにした。	・各種広報媒体の作成時に、複数回クラブの周知及びQRコード、サイドスタンプによる簡易登録方法を印刷する。
香川県	・23年4月5日にオープンした献血ルームの広報 ・血液センター職員の献血者への接遇のさらなる向上	・各広報媒体に新献血ルームを広報してもらう
愛媛県	・複数回献血者を構成員とする「複数回献血クラブ」(リピートあいピー)の周知を徹底し、複数回献血の推進を図る。	・愛媛県赤十字血液センター
高知県	・大学、専門学校において年2回以上の献血依頼 年1回の方にハガキでの依頼	—
島根県	・若者向けタウン情報誌による広報の実施 ・Love in Action プロジェクトの周知(HP、セミナー等)	・血液センター

④献血者が心の充足感をより得られ、安心快適に献血を行っていただけるような環境整備

都道府県名	予定事業の概要 (事業の取組みに当たって、重点を置く事柄を含む。)	本事業を行うに当たっての連携・協力先 (連携・協力を必要とする団体等やその連携・協力を得るための方法。)
鳥取県	・写真の展示等を行い、明るい環境整備に努める。	—
岡山県	・受付周辺に献血手順、注意事項を掲示した。	・派遣講師による改善を実施する
広島県	—	—
山口県	・検診車の増車	—
徳島県	<ul style="list-style-type: none"> <li>・血液センター職員の技術、接遇向上</li> <li>・リニューアルオープンした献血ルームは、待合・休憩場が広くゆったり休めるようになった。また、献血者に情報提供出来るように、インターネットコーナーを設置した。</li> <li>・採血時には、南側の窓一面から公園や山が眺望でき、環境は快適となった。</li> </ul>	—
香川県	<ul style="list-style-type: none"> <li>・23年4月5日にオープンした献血ルームの広報</li> <li>・血液センター職員の献血者への接遇のさらなる向上</li> </ul>	・各広報媒体に新献血ルームを広報してもらう

愛媛県	・採血の手順や採血後の過ごし方等をリーフレットを活用して説明に努め、初回献血者等の不安を払拭する。	・愛媛県赤十字血液センター
高知県	・初回の献血者には詳細な説明。 ・献血ルームの休憩スペースを充実。	—
島根県	・血液センター待合室の改装 ・雑誌・マンガ等の充実	・血液センター

### 3. 24年度の献血推進計画への記載を要望する事項

都道府県名	24年度献血推進計画への記載を要望する事項。 (特段に希望する事項があれば記載してください。)	記載を要望する理由
鳥取県	—	—
岡山県	・国として今後の高等学校献血をどう考えていくのか。	・供給増と献血者減少に伴う安定供給の問題
広島県	—	—
山口県	—	—

徳島県	・高校生献血の推進について、厚生労働省と文部科学省が協力して推進するように記載して欲しい。	・平成21年7月に高等学校学習指導要領解説保健体育編」に献血に関する記載がされたが、経過措置期間もあって、その趣旨が教育委員会には十分伝わっていなかった。今後、高校生に献血を啓発するに当たり、文部科学省からの通知等が有効となる。
-----	---	--

香川県	—	—
-----	---	---

愛媛県	—	—
-----	---	---

高知県	—	—
-----	---	---

島根県	—	—
-----	---	---

4. 東北地方太平洋沖地震への対応（情報共有（すべき）したいことなど、自由に記載して下さい）

都道府県名	自由記載
鳥取県	・被災地の血液センター等の状況は、適宜、情報共有すべきものである。

岡山県	・日本赤十字社本社の指示通りで実施している。
-----	------------------------

広島県	—
山口県	—
徳島県	・ 何れの地域が被災地となっても、血液が安定的に供給できる体制を構築しておく必要がある。
香川県	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 震災等の影響により血液の安定的な確保が困難になった場合に備え、香川県職員に対し、事前に、献血に協力してもらう人員を登録することとした。</li> <li>・ 同様にライオンズクラブにおいても震災時に献血の協力をいただける企業を募った（平成 22 年度）ため、血液が不足した際には協力を依頼することが可能。</li> <li>・ 被災地へ供給された被災地外の都道府県由来の血液量等を把握し、献血により、被災地に対する援助を行うことができること及びどのくらいの援助ができたのか、啓発事業の際に話題としたい。</li> </ul>
愛媛県	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 被災地域の血液センターの稼動状況及び必要な血液製剤の種類、数の情報の把握に努めているが、入手に時間がかかっている。</li> </ul> <p>これらの情報を共有して赤血球製剤の在庫状況のように毎日の状況がわかるようになればありがたい。</p>
高知県	—
島根県	・ 本部、基幹センターの指示通り東北ブロック応援のために赤血球、血小板の上乗せ採血に努めている。

第13回献血推進運動中央連絡協議会における協議事項について

2. 「献血推進2014」にある目標を達成するための重点的な取組み

①献血の意義を理解していただく取組み（受血者の顔が見えるような広報など）

都道府県名	予定事業の概要 (事業の取組みに当たって、重点を置く事柄を含む。)	本事業を行うに当たっての連携・協力先 (連携・協力を必要とする団体等やその連携・協力を得るための方法。)
富山県	医療機関に協力依頼をし、輸血を受けられた患者さん（家族の方）及び献血者からのメッセージを頂き、ホームページ、広報誌で紹介する。	医療機関、献血者
石川県	輸血を受けられた患者さんからの「感謝のメッセージ」を書いていただき、献血者等に関連して、さらなる献血意欲の向上を図る。	県内医療機関
福井県	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 出前講座において、献血の必要性を広報するDVD（八月の二重奏）の放映</li> <li>・ 血液センターのホームページに体見発表等の掲載</li> </ul>	
岐阜県	<p>ぎふ献血サポーターズクラブ総会時に受血者の講演をする。</p> <p>※ぎふ献血サポーターズクラブとは、県内の団体や企業等で構成される血液の県内自給を確保することを目的に活動する民間任意団体である。</p>	ぎふ献血サポーターズクラブ、血液センター

愛知県	啓発資材（ポスター、絆創膏など）の配布 受血者自身が表面に出ることは難しいが、医療機関とも連携を図り、受血者からメッセージをいただき、HP上や機関誌の紙面、またメール会員へもメッセージとして定期的に伝える計画をしている。	保健所、市町村、県・市教育委員会等 赤十字関係の医療機関との連携を図る。また、血液の使用量が多い医療機関への協力依頼。医師会への協力依頼。
滋賀県	献血者参加型広報誌の発行	
京都府	ホームページ「みんなの声」欄に輸血体験者のメッセージを掲載する。	医療機関、医師、輸血を受けた人
大阪府	現在、日本赤十字社では、受血者の顔が見えるようなDVDを制作しているので、献血団体や献血者に対して、DVDを活用した献血推進を行う。	
兵庫県	患者、その家族の声を取り上げたリーフレットの作成、大型ビジョンの活用（受血者の映像）を検討	医療機関及び患者の家族
奈良県	年間を通じてキャンペーンを実施し、献血の理解を深める。 記念品等、献血者の声を聞きながらキャンペーンを実施。	
和歌山県	受血者及びその家族・ボランティアからのラジオ番組でメッセージ。	ラジオ放送局
三重県	8月に献血感謝の集いを予定、受血者の感謝の気持ちが表れるようなことを検討中。 受血者の感謝の声を各種広報媒体に載せる。	医療機関への依頼。

② 10代の方々に献血の意義を理解していただき、初めての献血を安心して行っていただくような環境整備

都道府県名	予定事業の概要 (事業の取組みに当たって、重点を置く事柄を含む。)	本事業を行うに当たっての連携・協力先 (連携・協力を必要とする団体等やその連携・協力を得るための方法。)
石川県	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生を対象とした献血ポスターコンクールを実施、入賞作品を啓発資材のデザインに使用。</li> <li>・高校1年生へ献血読本を配布する。</li> <li>・高校生の集会等に参加し、献血の流れや種類、重要性等を説明し、献血の必要性について理解を得る。</li> </ul>	日赤石川県支部、県内高等学校
福井県	大学で学校祭の時期に実施する献血では、学校で献血普及のパネル展示を実施	各大学
岐阜県	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10代向けに、献血推進リーフレットを作成する。</li> <li>・高校個別訪問により、リーフレットの配布、高校生への献血の啓発について依頼する。</li> </ul>	血液センター、県内の高等学校
静岡県	高校生献血ボランティア「アボちゃんサポーター」事業の実施（県内18高校180名委嘱予定）	教育委員会、各高校
愛知県	<p>はたちの献血キャンペーン：県内の全高校1年生に対して「はじめての献血」リーフレットを配布する。</p> <p>各学校の校長・保健体育指導・養護教諭の皆様の理解と協力が不可欠である。</p> <p>養護教諭の研修会等で、献血の意義・必要性を訴える献血啓蒙と、各学校での「献血セミナー」実施を会議を通じて呼びかける。</p> <p>青少年赤十字奉仕団の研修会で呼びかけ。</p>	<p>県・市教育委員会</p> <p>担当部署（県医薬安全化、名古屋市環境薬務課）を通じて県教育委員会・名古屋市教育委員会へ協力依頼。</p>
滋賀県	高等学校の文化祭で「八月の二重奏」の上映	県内高等学校に協力依頼

京都府	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 献血出前講座、献血検定の実施</li> <li>・ JRCトレセンでの献血クイズ</li> </ul>	
大阪府	<p>①若年層に献血の重要性を訴えるため、10代、20代を対象として、献血を題材とした作品募集事業を実施。また応募作品を献血推進広報に活用。</p> <p>②献血ルームの休憩用スペースの充実化。</p> <p>③移動献血会場で、ゆったり休憩できる接遇車両の整備</p>	①府教育委員会等
兵庫県	<p>高校生献血ボランティア推進事業において、高校生（高等専門学校生含む）を対象として、ボランティア活動としての献血の趣旨等について普及啓発を行う。</p> <p>高等学校への献血セミナーの実施依頼（初回献血者に対して、事前説明用DVDを観ていただくことは全国統一对応）</p>	<p>市町、日赤、教育委員会、ライオンズクラブ等</p> <p>教育委員会、校長会への依頼</p>
奈良県	<p>パンフレットやリーフレット作成による高校生等への啓発</p> <p>DVDの視聴</p> <p>採血基準の改正により17歳から400mL献血が可能になったことによる普及啓発を行う。</p> <p>検診車を1台追加予定で、団体で来て頂いてもゆっくりできるようになる。</p>	血液センター、市町村・高等学校等 県・市町村
和歌山県	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高校生献血学習</li> <li>・ 高校等での献血講演の実施</li> <li>・ 初回献血者へDVDの視聴（継続）</li> </ul>	各高等学校、血液センター

三重県	<p>高等学校等に訪問し、学生ボランティアの依頼、献血への理解をお願いする。</p> <p>高校及び大学献血時に献血パネル掲示をし、ゆとりのある休憩スペースを提供し、スタッフ数を増強する。</p>	教育委員会、高等学校等
-----	--	-------------

③ 20代の方々にリピータードナーとなっていただくような取組み

都道府県名	予定事業の概要 (事業の取組みに当たって、重点を置く事柄を含む。)	本事業を行うに当たっての連携・協力先 (連携・協力を必要とする団体等やその連携・協力を得るための方法。)
富山県	各種イベントの案内や献血依頼のハガキを定期的に発送するとともに、複数回献血クラブ会員への登録募集強化を図る。	
石川県	成人式出席者に啓発資材を配布する。 献血推進映画「八月の二重奏」等、献血意欲を高める映像の上映会を県内大学等で開催する。	石川県学生献血推進委員会、石川県学生献血推進連絡会
福井県	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初回献血者に対する礼状の送付および次回献血可能日のお知らせ</li> <li>・複数回献血クラブ会員への加入促進</li> <li>・複数回献血クラブ会員を対象としたキャンペーンの実施</li> <li>・成分献血を複数回実施した献血者に対して処遇品の提供</li> </ul>	
岐阜県	献血ルームでの初回献血者には、お礼状と次回献血の依頼のはがきを送付する。	血液センター

愛知県	<p>400mL複数回献血キャンペーン:オリジナルグッズがもらえるキャンペーンを実施し、幅広い年代に複数回献血の機会を増やすことを目的として実施。</p> <p>20代への若年層には、同世代20代からの呼びかけが効果的であることから、愛知県学生献血連盟の学生たちによる献血啓蒙活動を積極的に行い、それについての支援を強化する。</p> <p>特に、学内での献血活動を積極的に行い、当日の献血協力に加えて、献血のメール会員を積極的に勧誘することで、その後の献血協力(複数回献血)に繋げる。</p>	<p>愛知県赤十字血液センター(グッズの費用についても、過去協力の実績あり)</p> <p>愛知県学生献血連盟に協力依頼</p>
滋賀県	処遇品の充実	ライオンズクラブ等
京都府	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バースデーカード、献血依頼ハガキ、メールの送付</li> <li>・携帯を含むHPでの広報</li> </ul>	
大阪府	大学を中心に複数回献血クラブの登録キャンペーンを実施。	
兵庫県	<p>若年層を対象としたショートムービーの制作や若者向けの依頼ハガキの作成と年2回以上の要請を検討。</p> <p>処遇品や職員のポロシャツ等、若い職員が中心のプロジェクトチームで若年層対策を行う。</p>	
奈良県	<p>大学献血において、メール会員の登録を啓発する。</p> <p>大学で人数が集まれば送迎のPRも行う。</p>	学生献血推進協議会等の協力を得る。
和歌山県	入会記念品を用意し複数回献血クラブへの入会啓発。(継続)	和歌山県学生献血推進協議会

三重県	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新成人に啓発資材を配布し、啓発を行う。</li> <li>・複数回献血クラブ会員の入会依頼</li> <li>・誕生日献血のハガキによる依頼</li> </ul>	市町
-----	---	----

④献血者が心の充足感をより得られ、安心快適に献血を行っていただけるような環境整備

都道府県名	予定事業の概要 (事業の取組みに当たって、重点を置く事柄を含む。)	本事業を行うに当たっての連携・協力先 (連携・協力を必要とする団体等やその連携・協力を得るための方法。)
富山県	献血バスの清潔感、季節に応じた内装等の環境整備をする。	
石川県	献血の流れや、次の場所（受付、事前検査、採血）への誘導や説明を行う、献血ボランティアを募集、育成する。	石川県学生献血推進委員会
福井県	献血者の安全確保（副作用防止）のため、献血を行う前に飲食物等の提供	
岐阜県	屋外で受付を実施している献血会場を中心に、検診車の稼働を増やし、献血者への接遇面を改善する。	血液センター
愛知県	固定施設の環境は改善されてきているが、一方移動採血車の環境はハードの問題もあり改善が容易ではない。その中で、受付の環境・献血後の休憩場所の資材について改善を図る。	
滋賀県	受付・採血室を清潔に保つための毎日の清掃と採決中のTV・DVD整備	
京都府	献血ルームの移設	

大阪府	①献血ルームの休憩用スペースの充実化 ②移動献血会場で、ゆったり休憩できる接遇車両の整備	
兵庫県	接遇マナー等の職員研修の実施	
三重県	休憩スペース、キッズスペースの確保 献血スタッフの資質向上のための研修強化	

### 3. 24年度の献血推進計画への記載を要望する事項

都道府県名	24年度献血推進計画への記載を要望する事項。 (特段に希望する事項があれば記載してください。)	記載を要望する理由
岐阜県	平成21年7月に「高等学校学習指導要領保健体育編」に献血に関する記載が掲載されたことにかんがみ、高校生を対象とした取り組みを積極的に行うこと。	高校生への働きかけを行う根拠の1つとして明記することにより、普及啓発がしやすくなる。

#### 4. 東日本大震災への対応（情報共有（すべき）したいことなど、自由に記載して下さい）

都道府県名	自由記載
福井県	統一した情報を一元化して定期的に提供していただきたい
愛知県	<p>従来毎日流される在庫状況とは別に、各都道府県での過剰・不足などの情報を含めた血液製剤の在庫状況等、厚生労働省で把握している情報にてついで、随時提供していただきたい。</p> <p>この度の震災にあたり、各血液センターは血小板製剤並びに赤血球製剤について宮城ブロックへの支援のため努力しているところですが、この支援は長期的になることが予測され、献血者には長期的かつ継続的な献血協力が必要である旨を様々な機会を通じて広報しています。輸血用血液の安定的な確保を推進する上で、日本赤十字社内はもとより国並びに地方公共団体の皆様においても、同様の意識と認識が必要でありその情報の共有は不可欠ですが、地方公共団体である市町村の皆様には血液事業の現状について情報が届いてないように思います。宮城ブロックへの支援は、引き続き必要な状況であること、また血液事業の現状について積極的な情報の提供による情報共有が必要だと思えます。</p>
京都府	<p>震災後、一時的な献血増は在庫不安定を来す恐れがあるため、長期的・継続的献血協力を献血現場や、ホームページ等で呼びかけた。今後も、安定した献血協力が得られるよう、献血者、各献血団体、協力団体、マスコミ等のご協力をお願いしたい。</p> <p>震災後に、被災地へ支援すべき血液製剤の種類別、型別本数が示され、ブロック別の支援数も示されたのは良かった。今後、必要な支援の状況に変化があれば、速やかに対応したい。</p>
大阪府	<p>大阪府においては、過去の阪神淡路大震災直後の献血協力者の意識を教訓として、今回の東日本大震災発生直後においては、震災の翌日から今後の継続的な献血協力をホームページや献血会場に掲示して協力を呼びかけたことにより、血液の有効活用が少なからず可能となった。</p> <p>今後は、震災直後に協力をいただいた初回及びご無沙汰の献血者に対して、複数回献血の協力要請などを行っていくことが必要と考える。</p> <p>日本赤十字社大阪府支部として、大阪府支部救護班を被災地へ継続して派遣しているとともに、平成23年9月30日まで「東日本大震災義援金」の募集を行っている。また、大阪府赤十字血液センターから、宮城県赤十字血液センター供給課に支援のための職員を4月15日まで派遣した。</p>

兵庫県	<ul style="list-style-type: none"> <li>・血液の安定確保と継続的な協力依頼に向けた情報の共有並びに迅速な対応が必要である。</li> <li>・東南海・南海地震及び大津波を想定して危機管理体制の見直しが必要になる。</li> </ul>
和歌山県	<p>被災地における献血活動が震災前と同じ状況になるには長い時間を要する。今後も継続的に献血に協力していただくため、被災地の現況について一過性に終わることなく継続して訴え続けることが必要である。</p>
三重県	<p>被災地には、長期間の支援が予想されるため、一時的ではなく、継続的な献血の協力を献血会場やホームページ等で呼びかけた。</p> <p>今後も、血液センター・献血協力団体等と連携して、継続的な献血協力者を確保していきたい。</p>

第13回献血推進運動中央連絡協議会における協議事項について

2. 「献血推進2014」にある目標を達成するための重点的な取組み

①献血の意義を理解していただく取組み（受血者の顔が見えるような広報など）

都道府県名	予定事業の概要 (事業の取組みに当たって、重点を置く事柄を含む。)	本事業を行うに当たっての連携・協力先 (連携・協力を必要とする団体等やその連携・協力を得るための方法。)
茨城県	・各種イベントの実施ークリスマス、J2サッカークラブとのキャンペーン（ファンクラブ、少年サッカーチームの参加）他、	・学生ボランティア、J2サッカークラブ
栃木県	・血液センターまつりの開催（模擬店、施設見学、献血実施）	・血液センター、宇都宮合同ライオンズクラブ、栃木県学生献血推進連盟「かけはし」
群馬県	・日ごろの献血協力への感謝の意を表わすとともに、一層の献血思想の普及推進を図ること目的として「献血感謝デー」キャンペーンを実施し、血液センター所長感謝状贈呈式、健康相談などを行った。	・大型ショッピングモール
埼玉県		

<p>千葉県</p>	<p>【県】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各種献血キャンペーンを実施するとともに、各種広報媒体に献血関連情報を提供する。</li> </ul> <p>【血液センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生向け啓発テキストの作成・配布</li> <li>・公共交通機関のポスター広告による献血広報の実施</li> <li>・高校・大学・専門学校献血要請や広報等の実施</li> </ul>	<p>【県】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県民だより、市町村広報誌、県内報道機関、地域広報誌等</li> </ul> <p>【血液センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・千葉県教育長</li> <li>・JR 並びに民間鉄道</li> <li>・千葉都市モラル</li> </ul>
<p>東京都</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日赤のドナー向け広報誌を年に5～6回発行し、、受血者から寄せられた声を掲載、献血の重要性を訴えていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療機関輸血部、都・血液センター・区市町村の連携</li> </ul>
<p>神奈川県</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元 FM 局番組内での公募、県内主要医療機関でのポスター掲示により出演者を募集し、輸血を受けた患者さんに出演していただいた献血推進ポスターを製作。</li> <li>・本年8月には献血ルームを移設予定。地元サッカープロ球団選手及び地域の母親ネットワークを通じて輸血経験のある子供たちを募集しポスターを作成する予定。</li> <li>・輸血経験のある子どもに出演を依頼し、この子どもを中心とした闘病中の様子や家族のふれ合いの場面をスポット的に紹介するDVDを作成、各種研修やイベント、キャンペーン等で上映する予定。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・FM ヨコハマ</li> </ul>
<p>新潟県</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・献血普及講演会、献血ルーム見学会の実施 (小学生～大学生対象)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県教育委員会</li> </ul>

山梨県	<ul style="list-style-type: none"> <li>啓発資材の配布・ポスター等の掲示</li> <li>【血液センター】</li> <li>地方紙への広告掲載</li> <li>センターホームページの充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>血液センター</li> </ul>
長野県	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業・学校等での出張講座。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業・学校・市町村。</li> </ul>

② 10代の方々に献血の意義を理解していただき、初めての献血を安心して行っていただくような環境整備

都道府県名	予定事業の概要 (事業の取組みに当たって、重点を置く事柄を含む。)	本事業を行うに当たっての連携・協力先 (連携・協力を必要とする団体等やその連携・協力を得るための方法。)
茨城県	<ul style="list-style-type: none"> <li>献血可能となる16歳(高校生)での献血体験促進を目的として、高校献血キャンペーンを実施。毎年11月から3月に県内の献血ルームで献血に協力した高校生に対して記念品を配布するとともにアンケート調査を実施する。</li> <li>キャンペーンに先立ちポスターコンクールもする。県でキャッチコピーを設定し、これに対するデザインを募集、優秀な作品を表彰する。</li> <li>事前健康診断で採血不適合となった協力者に対して、再度、協力を申し出てもらえるよう何らかの措置を行う予定。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育委員会、高等学校</li> </ul>
栃木県	<ul style="list-style-type: none"> <li>高等学校学内献血の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>血液センター、JRC青少年赤十字奉仕団</li> </ul>
群馬県	<ul style="list-style-type: none"> <li>県内高等学校に対して献血への協力を呼びかける依頼文の発送を予定している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>県教育委員会</li> </ul>

埼玉県	<ul style="list-style-type: none"> <li>・血液に関する出前講座の実施(継続)</li> <li>・新高校1年生入学おめでとう「献血ルーム見学会」の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・血液センター</li> </ul>
千葉県	<ul style="list-style-type: none"> <li>【県】</li> <li>・献血啓発ポスターの募集・表彰</li> <li>【血液センター】</li> <li>・献血啓発ポスターの募集・表彰</li> <li>・サッカー・ラグビーチームの協力による若者向けポスターの作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【県】</li> <li>・健康福祉センター、教育委員会、市町村</li> <li>【血液センター】</li> <li>・NECグリーンロケッツ</li> <li>・柏レイソル</li> <li>・千葉県赤十字血液センター</li> </ul>
東京都	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校献血の実施回数拡大</li> <li>・事前説明会等機会拡大</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都・血液センター・区市町村との連携</li> </ul>
神奈川県	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元プロスポーツ球団と協力したPR (イベント・キャンペーンの実施)</li> <li>・FM放送におけるラジオ番組の作成(毎週火曜日)</li> <li>・着ぐるみによる広報</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・横浜ベイスターズ・横浜F・マリノス</li> <li>川崎フロンターレ・湘南ベルマーレ</li> <li>・FMヨコハマ</li> </ul>
新潟県	<ul style="list-style-type: none"> <li>・献血普及講演会、献血ルーム見学会の実施</li> <li>・学生ボランティアによる街頭献血PR活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県教育委員会</li> <li>・各高等学校等</li> </ul>
山梨県	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学3年へリーフレットを配布。献血について説明、献血をより身近に感じるための活動に取り組む。</li> <li>【血液センター】</li> <li>・約30年間、県内全高校での献血を実施している。</li> <li>・中学生への血液の知識の普及(県内のいくつかの地域において夏休みの友等への掲載を確約)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校</li> <li>・血液センター、</li> </ul>

長野県	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初回献血者が抱えている不安を払拭するため、初回献血者が多い学校では関係者と協議のうえ、事前にセンターの職員を派遣。各教室にて献血の基礎知識を説明後、リーフレットにより献血後の過ごし方など献血の流れを説明し、献血に協力してもらう活動を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市町村、献血協力団体。</li> </ul>
-----	---	--

③ 20代の方々にリピータードナーとなっていただくような取組み

都道府県名	予定事業の概要 (事業の取組みに当たって、重点を置く事柄を含む。)	本事業を行うに当たっての連携・協力先 (連携・協力を必要とする団体等やその連携・協力を得るための方法。)
茨城県	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学、短大及び専門学校等への献血推進</li> <li>・はたちの献血キャンペーンの実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学等、市町村</li> </ul>
栃木県	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学・短大・専門学校学内献血の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・血液センター、栃木県学生献血推進連盟「かけはし」</li> </ul>
群馬県	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの若年層が利用するシネマコンプレックスにおいて、献血思想の普及を目的として、映画本編上映前の広告(シネアド)で献血協力をテーマとしたCM映像を放映する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内シネマコンプレックス</li> </ul>

埼玉県	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 献血ゆる玉応援団(埼玉県キャラクター)による「献血ありがとう」キャンペーンの実施(本年度7月～9月に第3回、2月～3月に第4回を実施する予定)。</li> <li>・ キャンペーン広報ポスターを500部作成、県内の大学および高校に配布し、学生に対するPRを行う(2年間の実施予定であったが、好評であれば今後の継続実施を検討する)。</li> <li>・ 複数回献血者を確保するための携帯メールクラブが、地元プロサッカー球団の試合の際にスタジアム外スペースにてパンフレット、啓発物品の配布を行うなどのキャンペーンを実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 血液センター</li> </ul>
千葉県	<p><b>【血液センター】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本赤十字社の複数回献血クラブの推進</li> <li>・ 各献血ルームでのイベント開催</li> </ul>	<p><b>【血液センター】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 千葉県赤十字血液センター</li> </ul>
東京都	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 複数回献血クラブの推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 厚生労働省・都・血液センター・区市町村との連携</li> </ul>

<p>神奈川県</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元プロスポーツ球団と協力した PR を実施。県内にある7カ所の献血ルームで、それぞれの球団から寄贈されたグッズやサイン等を展示、若者の注目を集めるような工夫を行う。また、各献血ルームが地元である球団が勝った時には、そのチームのユニフォームを着用しているキャラクターのストラップを配布する。</li> <li>・球団とのタイアップキャンペーンとして、地元で試合時は献血バスを配車するなどイベント等を行っている。</li> <li>・地元 FM 局にて協力番組を制作し、番組内で血液事業に協力しているボランティアを紹介。</li> <li>・着ぐるみによる広報</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・横浜ベイスターズ・横浜F・マリノス</li> <li>川崎フロンターレ・湘南ベルマーレ</li> <li>・FM ヨコハマ</li> </ul>
<p>新潟県</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・未登録者に対して献血メールクラブ PR と登録依頼をする。登録作業を簡略化するための非接触型装置を設置し、携帯電話をかざした人に記念品を贈呈し登録者を増やしている。</li> <li>・登録後は登録者に煩わしいと思われない範囲でこまめに情報提供する。献血の要請だけでなくキャンペーンや街頭献血の告知等、情報を発信する。</li> <li>・一定期間メール未達となった登録者は、つながりが途切れないよう DM にて再登録を依頼する。</li> </ul>	
<p>山梨県</p>	<p>【血液センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・メールクラブの会員募集</li> </ul>	
<p>長野県</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・献血に関するセミナーを開催し、献血への理解を深めてもらい、献血の協力をいただく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学、専門学校、献血協力企業。</li> </ul>

④献血者が心の充足感をより得られ、安心快適に献血を行っていただけるような環境整備

都道府県名	予定事業の概要 (事業の取組みに当たって、重点を置く事柄を含む。)	本事業を行うに当たっての連携・協力先 (連携・協力を必要とする団体等やその連携・協力を得るための方法。)
茨城県	・献血ルームでのカラーセラピー、ネイルアートケア、ハンドトリートメントの実施	
栃木県	・血液センター・献血ルーム（固定施設）において、栄養相談、リラクゼーション等の実施。	・県栄養士会
群馬県	・移転新設した献血ルームには、暖色系の家具・ファブリック等の配置、風景写真による装飾など、協力者に献血場所として意識させない空間作りを工夫した。JR 駅ビル内に献血ルームを設置したことで、駅利用者だけでなくショッピング目的の駅ビル利用者に対しても献血を呼びかけることが可能となり、結果として献血協力者を増加させることができた(20 代女性対前年同月比145%)。	・血液センター
埼玉県	・ホスピタリティーを重視した献血者対応研修の実施。	・血液センター
千葉県	【血液センター】 ・各献血ルームで救急法のミニ講習会等のイベント開催 ・献血会場で使用するテント、椅子、机等の更新、夏期における献血者への飲料の追加	【血液センター】 ・赤十字社千葉県支部 ・千葉県赤十字血液センター

東京都	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ある献血ルームはイベントスペースの展示に一般の方も参加したところ、その内容が高く評価され 2010 グッドデザイン賞を受賞した。また、別の献血ルームでは、近隣商店街の協力を得て店舗商品の一部を借り受けルーム入り口に展示している。</li> <li>・ルーム来訪者は施設近隣の人が多いので、献血協力者の性別、年齢の構成比等を考慮して地域の特性を活かしたルーム作りに取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都・血液センター・区市町村との連携</li> <li>商店街・地域等との連携</li> </ul>
神奈川県	<ul style="list-style-type: none"> <li>・快適にご協力いただける献血ルームの整備を行う。</li> </ul>	
新潟県		
山梨県	<p>【血液センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・献血ルームの環境整備</li> <li>・移動採血現場での献血者への飲料水の事前摂取</li> </ul>	
長野県	<ul style="list-style-type: none"> <li>・献血者採血後の休憩スペースを十分に確保する等、献血者の受け入れ態勢の改善に努める。松本ルームの移転に伴い快適に献血が出来る環境の整備を図る。</li> </ul>	

3. 24年度の献血推進計画への記載を要望する事項

都道府県名	24年度献血推進計画への記載を要望する事項。 (特段に希望する事項があれば記載してください。)	記載を要望する理由
茨城県	特になし	
栃木県	特になし	
群馬県		
埼玉県		
千葉県		
東京都		
神奈川県	特になし	
新潟県		
長野県	特になし	

#### 4. 東北地方太平洋沖地震への対応（情報共有（すべき）したいことなど、自由に記載して下さい）

都道府県名	自由記載
茨城県	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発災以降、献血受入場所のキャンセルが多く街頭献血に頼る状況が続き、一時的に献血者確保に苦慮したが、その後、多数の協力者から理解を得られ通常と変わらない血液量を確保できた。</li> <li>・ 県内固定施設のうち1カ所が被災し、1ヶ月以上稼働できなかつたため、街頭献血に頼る状況が続いた。さらに、移動採血では発災当時、燃料確保が困難であったため、近場の採血場所を優先的に巡回し対応した。結果的には1カ所の街頭献血場所へ集中的に通うこととなった。</li> <li>・ 今回の災害をとおしては燃料確保が最も大きな問題であった。今後の危機管理としてこの点について対策を行った。</li> </ul>
栃木県	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県内では、震災の影響により移動採血車による企業献血、団体献血が相次いで中止となり、移動採血車の配車を街頭献血などに振り替えて献血受入を行った（平成23年4月8日現在）。</li> <li>・ 栃木県内においては15市町に災害救助法適用された。県内には被災した企業等が多数あり、操業停止や改修工事等のため、献血協力を得られなくなっている団体も出てきている。今後も復旧の進捗状況や夏場の計画停電などの状況によっては、影響の継続もしくは深刻化が懸念される。</li> <li>・ 発災後の状況は津波に関する事柄以外は、ほぼ茨城県と同じ状況であった。献血については固定施設、移動採血車ともほとんど被害はなかったが、県の北部および東部は地域として被害が大きく採血計画どおりの配車等が困難となり、また献血協力を断る団体も多く街頭献血にて対応した。</li> <li>・ 発災当時は献血者数が減少することもなく血液量確保は順調に推移していたが、例年夏場に実施していた大規模事業者による計画献血の実施が困難になる見通しが出てきた。また、当初計画から時期をずらして献血を実施しているため、（採血間隔を考慮すると）今後の計画に大きな影響が出ると考えられる。</li> </ul>
群馬県	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 災害発生直後より献血協力者が殺到した。これにより、その後の献血協力者が枯渇することを防ぐため、継続的な協力者に対しては、その場での献血はご遠慮いただき、期間をおいてからの献血協力をお願いする対応を取った。</li> </ul>
埼玉県	

千葉県	<p>【血液センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発災当時若干の不都合はあったが、血液供給に関しては大きな問題はなかった。また、移動採血が十分に行えなかったが需要も減少したため、供給量が若干減少しても需給バランスの観点からは全く問題はなかった。</li> <li>・ 計画停電時には血液センターがその対象区域から除外されることがなく一般の施設と同様に電力供給が停止された（震災発生時から10日間で延べ4回の停電）。血液センターは、受注業務を原則としてFAXにて受け付けているが、全てのFAXを自家発電機に繋ぐことは不可能であり、一部の受注業務を円滑に行うことが出来なかった。また、血液保管庫からの出庫業務を行うシステムに無停電電源装置を組み込んでおらず、システムの一部が稼働せず手書きの伝票にて対応する事態となった。</li> <li>・ 今後このような事態が発生するか予測はできないが、再度、通常業務で使用しているシステムを見直し対応を検討したいと考えている。また、今後、夏場の計画停電が実施された場合に対しても対応を検討する。</li> </ul>
東京都	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 宮城ブロックへの支援は、全国において需要量に対する割合を各ブロック内にて按分比率から支援を行っている。</li> <li>・ 東京都血液センターは、各血液センターからの血液製剤受入を行い、宮城センターとの血液需給調整を行っている。</li> </ul>
神奈川県	特になし
新潟県	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 継続的な献血協力者の確保のため、国としても適切な情報提供をしてほしい。</li> </ul>
山梨県	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 被災地（東北ブロック）における血液の確保状況について</li> <li>・ 計画停電に伴う対応について</li> </ul>
長野県	

第13回献血推進運動中央連絡協議会における協議事項について

2. 「献血推進2014」にある目標を達成するための重点的な取組み

①献血の意義を理解していただく取組み（受血者の顔が見えるような広報など）

都道府県名	予定事業の概要 (事業の取組みに当たって、重点を置く事柄を含む。)	本事業を行うに当たっての連携・協力先 (連携・協力を必要とする団体等やその連携・協力を得るための方法。)
北海道	北海道独自のリクルート誌（年1回5000～7000部）を発行。患者、医師の声を記事として掲載し、各市町村をはじめ献血協力団体及びボランティア団体へ配布。移植医療とタイアップにより、移植医療を受けた方に献血フォーラムへの参加を依頼し、別の視点から啓発を実施。献血啓発用DVDを使用した団体に対する献血説明を実施。	・北海道・日赤・医療機関
青森県	新聞、ラジオ及びフリーペーパー等を利用し、献血の意義を理解できる広報活動を検討。	
岩手県	献血推進用DVD「八月の二重奏」を各種会議や研修会での上映を検討。	・各種会議、研修会での上映
山形県	出来る限りの手を尽くして対応する予定。特に重点的なことは検討していないが、様々な工夫が必要。	

宮城県	<p>献血啓発雑誌「献血 walker」を献血者へ配布することにより、リピータードナーの増加を推進。県が5年くらい前から行っている「愛の献血70字ストーリー」事業を継続し、ストーリーの優秀賞を表彰すると共に、最優秀作品に付いては、ストーリーCMを作成しFMラジオで放送。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宮城県赤十字血液センター（献血 walker）</li> <li>・県、各市町村、各高等学校、宮城県赤十字血液センター（愛の献血70字ストーリー）</li> </ul>
福島県	<p>震災の影響により、事業の実施を見合わせた中で実施せざるお得不い状況。血液センター、各市町村の協力を得ながらできる範囲内で「愛の血液助け合い運動」、「はたちの献血キャンペーン」を実施する予定。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県、市町村、血液センター等による献血推進</li> </ul>

②10代の方々に献血の意義を理解していただき、初めての献血を安心して行っていただくような環境整備

都道府県名	<p>予定事業の概要 (事業の取組みに当たって、重点を置く事柄を含む。)</p>	<p>本事業を行うに当たっての連携・協力先 (連携・協力を必要とする団体等やその連携・協力を得るための方法。)</p>
北海道	<p>模擬献血による体験イベントの開催や見学コースを設け、安心して献血ができるような体制を整備。学校等における集団献血に関し、献血実施日前に学校を訪問し、17歳から協力できることなども踏まえ、献血の重要性を情報として提供するなど、環境作りの整備を実施。</p> <p>固定施設のアメニティなど関し、キッズコーナーや休憩スペースの充実、献血セミナー、出前講座の積極的な取組を検討。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日赤、教育委員会</li> </ul>

青森県	学校訪問の実施、献血講座の実施により、献血への理解を深めて行く予定。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県、市町村、学校長</li> </ul>
岩手県	高校生献血セミナーでは講座の開催を検討。高等学校の献血に際しまして事前説明用のDVDの作成、配布を検討。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県高等学校長協会</li> </ul>
山形県	次世代の献血者の確保を目的に中学校を対象とした呼び掛けを検討。また、DVDを上映したりしながら献血の説明を検討や献血推進ポスターコンクールを中・高校生を対象に夏から秋にかけて実施。高等学校に対しては、授業カリキュラムの妨げにならないよう事前（1学期中）に周知。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 血液センター、県内中学校（献血に関する講演）</li> <li>・ 県内中学・高等学校（ポスターコンクール）</li> </ul> <p>（2学期後半に高校献血が始まるため、早い段階で周知活動を行うため、1学期中にパンフやチラシを高校に持っていく。）</p>
宮城県	高等学校における献血セミナーの実施を検討し、3月初旬に各校に通知しているが、震災の影響により、問い合わせや申込みが極端に少ない状況。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各高等学校、宮城県赤十字血液センター</li> </ul>
福島県	出前講座による献血の重要性についての説明、血液センター側からはVVP防止（血管迷走神経性失神）のため、より丁寧な説明や献血後の十分な休憩を徹底して頂くなどの対応を実施。	

③ 20代の方々にリピータードナーとなっていただくような取組み

都道府県名	<p style="text-align: center;">予定事業の概要 (事業の取組みに当たって、重点を置く事柄を含む。)</p>	<p style="text-align: center;">本事業を行うに当たっての連携・協力先 (連携・協力を必要とする団体等やその連携・協力を得るための方法。)</p>
<p style="text-align: center;">北海道</p> <p style="text-align: center;">(道内市町村)</p>	<p>献血リピーターである「複数回メール会員」(約9千人)に対し、メルマガを月1回発信し、イベント情報、献血に関する情報を提供中。また、今年度、本社で推進する「複数回クラブ会員」の献血カードを配布(北海道パイロットセンターとして8月中旬より開始)し、これをきっかけにクラブ会員及びリピーターの増加を推進。大学・各専門学校等の各固定献血協力施設に対する定期的な情報提供(チラシ、ポスター配布)の実施。</p> <p>道内各血液センター(献血ルームは除く)は、人通り条件が悪い地域に設置されており、献血要請時において、子育ての方々が安心して献血をしていただけることをアピールし、各地域におけるレポートに繋げる推進に取り組んでいく。</p> <p>年齢を限定した広報は特にしていないが、採血者へは、再度、献血に協力いただくようお願いしている。</p>	<p>・日赤</p>

青森県	<p>ヤング献血の実施について、10～20歳代の献血依頼可能者へ採血基準改正の通知、その際、献血記念品の引換を同封。また、サイトスタンプを設置し、複数回献血クラブの会員を募り、メールでイベント情報等を提供することを検討中。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県・市町村</li> </ul>
岩手県	<p>大学・専門学校等の校内での複数回献血を実施。また、大学においては、年間3回～4回複数回バスを配車。その他、献血&amp;コンサートの開催し、推進していく予定。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各学校、学生ボランティア</li> </ul>
秋田県	<p>22年度クリスマス献血キャンペーンとバレンタイン献血キャンペーンを実施し、10～20歳代の献血経験者の方に献血の依頼をお願いしたところ、多くの協力者が得られたことから、今年度も引き続き20歳代をターゲットにした献血キャンペーン等を実施する予定。また、周知方法は、ハガキ等でキャンペーンを実施することを知らせ、年に1回以上献血に協力願うよう計画中。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ボランティア団体等</li> </ul>

山形県	<p>テレビCMは費用が掛かるため、映画館でのCMを実施中。映画館の選定も協力いただける3箇所です1日5回の放映を実施。内容的には、広く献血を呼び掛けているというような構成のCM。また、大学などでの献血の際には、複数回献血クラブの登録の勧誘を実施。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・映画館</li> <li>・成分献血・400mL献血可能者が多くいる大学等で献血を行い、献血終了後の接遇時に勧誘を行う。</li> </ul>
宮城県	<p>20歳代の主に活用する情報ツール（携帯電話）を活用し、複数回献血クラブ会員数を増加させ、リピータードナー推進に係るメール情報を配信。また、新規登録者には記念品を進呈。なお、新規登録を行いやすいよう、携帯電話用サイト誘導装置（サイトスタンプ）こちらを固定施設だけではなく移動施設でも全て持ち歩いている。その他、QRコードを利用するが、スマートフォンだとQRコードが読み込みやサイトスタンプも使えない機種があることから、今後の検討が必要。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宮城県赤十字血液センター</li> </ul>
福島県	<p>複数回献血クラブ入会キャンペーンは、今年2月の献血フェスティバルから、処遇品の一つとして福島県赤十字血液センターと印字されたチョコQを配布。</p>	

④献血者が心の充足感をより得られ、安心快適に献血を行っていただけるような環境整備

都道府県名	<p>予定事業の概要 (事業の取組みに当たって、重点を置く事柄を含む。)</p>	<p>本事業を行うに当たっての連携・協力先 (連携・協力を必要とする団体等やその連携・協力を得るための方法。)</p>
北海道	<p>北海道の移動献血車は、特大型バスを利用しており、全国との違いは受付のみ車外であり、その他検診・採血・休憩はバス内で行っている。今後、特殊トラックベース献血車を含み、北海道特有な移動採血車を思案中。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日赤</li> </ul>
青森県	<p>赤十字血液センターの職員のスキルアップを目指し、外部講師による接遇のマナー等の研修を実施中。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部講師</li> </ul>
岩手県	<p>献血して頂いた方の充足感を満たすため、血液がどのように役立っているのかなどを献血者へ情報提供するというのが大事と考え、それらの情報を提供予定。その他、安心・快適さを満足していただくため、接遇技術のスキルアップを検討。</p>	
秋田県	<p>今後も献血者が健康で安心して献血を行えるように検診医師の確保に向け、医師を派遣いただく関係団体と連携。また、移動採血車を含め、施設内の清潔感に十分に配慮。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県医師会等</li> </ul>

山形県	献血の際の待ち時間の短縮するための工夫を実施。	・宮城県赤十字血液センター
宮城県	固定施設におけるインターネット設備やマッサージ機器の設置。震災の影響で使用を控えておりますが、屋上の空間を活用したガーデンカフェを提供。	
福島県	センターの職員の方々のスキルアップ及び採血時の事故防止などの取組を実施。また、余震対策の一環として採血時の看護職員の増員配置の実施。	

### 3. 24年度の献血推進計画への記載を要望する事項

都道府県名	24年度献血推進計画への記載を要望する事項。 (特段に希望する事項があれば記載してください。)	記載を要望する理由
	各道県の要望等なし	

#### 4. 東日本大震災への対応（情報共有（すべき）したいことなど、自由に記載して下さい）

都道府県名	自由記載
北海道	<p>震災の影響については長期化が予想され、献血においてもオールジャパンで対応している。しかし、例年夏場の在庫は安定していることから、在庫不足問題が出始めるのは秋以降になると予想する。震災直後は多くの献血者からの申し出が多く、新規率も3%くらい昨年よりアップあるが、一時的なものと思われる。今後秋に向け、在庫不足問題を解決するため、国と本社タイアップし、公共広告機構にCM的なものを流すなどの対策が必要と思われる。</p>
(道内市町村)	<p>震災直後は、旭川市内の輸血医療に支障がないかについて、市として把握する必要があると判断し、定期的に確認を行いました。確認方法は口頭により、確認先は、北海道旭川赤十字血液センターとしていました。</p>
岩手県	<p>今回の震災により、宮城・福島も同じでしょうが、沿岸地域への献血バスの配車はほとんど不可能という状況。これは当県の場合は今年度の当初の年間計画の概ね2割弱にあたる。6月以降で考えると、当初の計画のよりも12～13%近く、バスの配車は減らさざるを得ないというような状況下であり、内陸部の市町村でカバーするのがなかなか難しい状況。平日はほとんど行ける事業所もないですし、できるとすると休日の街頭の献血と、こういうところで少しでも不足分をカバーしていきたいと思っておりますが、それでもやはり当初の年間計画からみますと1割くらいは血液が不足する状況にありますので、なんとか他の県の協力をいただいでいかなければならないと思っている。</p>
秋田県	<p>被災地の宮城県・福島県・岩手県、そちらの方で大変な被害を受けている状況を踏まえ、当県の血液センターで、出来る限り採血に協力するよう支援する予定。</p>

宮城県	<p>かなり被害が大きかった地域では、ライフラインの復旧が非常に遅れた。また、献血実施可否の確認する手段の電話も一週間ほど不通の状態であり、最終的に全市町村に連絡が取れたのは4月6日になってからである。南三陸町が電話が開通したのが4月5日というお話でしたので、ちょうどいいタイミングで電話をかけたのかなと思っていました。その後各市町村、災害優先ダイヤルによる市町村への連絡は、災害対策本部に繋がることから、献血の担当者に電話が繋がるまで少し時間がかかることと、災害用務が優先されるなど不在しがちだったため、担当に繋がること自体まれであった。また、献血会場自体が津波で流されているというような状況があり、復旧までに要する期間が全然想像がつかない状態となっている。また、血液センターとしては被災地域の献血バスは、年間950台ほどのバスの配車予定でしたが、300台ほど配車ができないのではないかとという予想し、その配車ができない部分を内陸部の事業所対応したいと思案しているが、献血者の増加も見込めないことから、新規の事業所に対しての働きかけを行い、沿岸部のバスの配車分を少しでも補うような努力をしていかなければと考える。その他、節電の対策の影響で、内陸部の事業所であっても地震の被害を受けた関連会社、関係企業等の関係で業務が停止していることもあるほか、献血バスの配車予定日営業を定休日にするため、献血自体が中止になることもある。</p>
福島県	<p>福島県内では、東京電力・福島第一原発の事故の関係で放射能線が広がっており、福島県民は本当に放射能に苦しんでいる。そんな中、1週間前の毎日新聞の記事に、東京都内に避難されたいわき市の男性が東京都内で献血をしようとしたところ放射線被曝を理由に献血を断られるなど、風評被害も見受けられた。今後、このようなことが続く可能性があり、その防止対策について対応願いたい。</p>
日赤	<p>4月1日付けで十分な教育訓練をするということに対応することとしていたが、担当医師のところまで十分な周知がなされていなかったことから発生したと認識している。基本的には、今回の事態で献血をご遠慮いただくことはなく、線量20ミリシーベルト基準以上の被曝の可能性がある方にはご本人の健康に配慮し、献血をご遠慮いただくとのことであり、十分に徹底されていなかったとが原因です。今後そういったことがないように一層の教育訓練を努めていきたいと思っております。</p>